

東日本大震災における出生率への影響

— 市区町村単位の実証分析 —

芝 啓太[†]

概 要

2011年3月11日に東北沖を震源とする東日本大震災は、日本に多大なる被害と影響をもたらした。このような予期せぬ外生的ショックは、人々の意思決定やリスク選好に影響を与えたと考えられる。そこで、本研究は、出生率に焦点を当て、震災の影響を正確に推定することを目的とする。データは市区町村単位で集計されたパネルデータを用いて、**Difference-in-Difference** で推定した。その結果、被災地は、そうでない地域と比較して出生率は有意に減少したことが分かった。また、出生率は広い範囲で減少しており、被害が大きい地域ほどその減少幅は大きいという結果が得られた。一方で、婚姻率についても分析を行ったが、明確な傾向は見いだせなかった。

[†] (連絡先住所) 〒560-0043 豊中市待兼山町 1-7 大阪大学大学院経済学研究科
(E-mail) rge013sk@student.econ.osaka-u.ac.jp